

～地域間歴史観光ネットワークの構築～

1. はじめに

現在まで、日本各地において、経済的な地域おこし的手段としてその土地の歴史的要素や人物を主体にした歴史観光の地域間競争が行われてきた。国内では毎年、NHKの大河ドラマが年間をとおして放映され、そのドラマの舞台となった主要な地域が歴史観光地として脚光を浴びている。昨年はその名のおり『篤姫』で鹿児島県、今年は戦国武将 直江兼続の『天地人』で新潟県、そして来年は幕末の英雄 坂本龍馬の『龍馬伝』で高知県が脚光を浴びるだろう。

日本では、その年に放映された大河ドラマの主要な地域がその年に観光地として盛り上がり、時を過ぎると大幅に減少する傾向にあるらしい。これは、悔しいかな単一民族国家日本に住まう平和でマスコミ的な刺激に弱い日本人らしいミーハーな感情がそうさせているのかもしれない。

しかし歴史は、決して単純なものではなく長い時間を経て創られたもので広く深く謎も多い。そして日本各地の地域間においても色んな関連性がありもっと広く深く大きなスパンで楽しむものだと思う。

この提案は、日本各地にある歴史関連情報をネットワーク化し、地理的な情報に歴史関連情報を加え、それらと位置に関する情報を持った空間データを総合的に管理し、地図情報や歴史関連情報を文章や写真などのデータで表示するとともに、利用者に、日本全土を視野においた広域的な歴史観光ルートを提供し、その歴史観光ルートを道しるべとした利用する観光者の流動性から生まれる地域間のつながりから観光業界を活性化して、より経済的な地域おこしを推進することを狙いとした偏見と非現実的な妄想から生まれた企画である。

次に詳細を述べる。

2. 現状

では、歴史観光をしたいと考えている人々は一体、観光自体にどういったことを望んでいるのか。平成20年10月に国土交通省の外局として観光庁が発足した。内閣府の『観光立国と観光庁に関する特別世論調査』では、観光立国の実現に向けて特に重要だと思う施策として大きく以下の3項目が挙げられた。(複数回答)

- ①魅力ある観光地づくり(58.6%)
- ②観光しやすい環境の整備(46.5%)
- ③観光に関する人材の育成(34.4%)

こうしたニーズに対応し、国土交通省は、人々のゆとりある生活を実現するためにも、国を挙げて観光立国の実現を目指していくことが重要と述べている。

ここで、①～③を自分勝手解釈してみると、①は観光地自体のインフラ整備を、②は観光するための時間的余裕の確保を、③は観光地の売りを熟知したガイドの育成等を意味していると思われる。

更に深く考えてみる。

このうち②については観光者の就業形態などによって左右されるものと判断し除外したら、残りの①と③は観光の対象となる拠点を指していると判断できる。

つまり、極端な話ではあるが、世論調査では観光地そのものを魅力的に整備し、訪れた際には熟練のガイドに案内してほしいと考えていると推測する。

しかし、観光地のある地域の経済的な地域おこしを持続可能なかたちにしたいかと考えたときに、こういった点的整備を促進するだけで持続可能なのであろうかと懸念が生まれる。冒頭に述べたとおり、日本では、その年に放映された大河ドラマの主要な地域がその年に観光地として盛り上がり、時を過ぎると大幅に減少する傾向にある。いくら、その年に観光的な賑わいが生まれても次の年に激減するのであれば、本当の観光立国を実現できるのであろうか。

これは、全く大げさな懸念である。

しかし、点的整備だけで観光者の来訪を普遍的なものにするには限界があるだろう。

ETC 搭載車両限定の高速道路の休日どこまで走っても1000円割引制度がはじまり、今後ますますマイカーを使用した観光者は増えていくだろう。観光者は観光地にある何かに興味を描き、それを目的に遠くからその観光地に移動してくる。

その観光者が本当に求めているものは何か。

本提案は、観光の中でも歴史観光にスポットをあてている。過去において、歴史上の人物といった方々は決まって東へ西へ奔走し、土地さまざまの人物と関連を持ち歴史を動かしている。つまり、歴史観光を行う観光者は、各個人の妄想から生まれる例えば日本全土を舞台とした広範囲なその歴史上の出来事や人物の歴史エンターテインメントといったものを求めているのではないか。

これは、全く大げさな想像であるが。そうした場合に、各地域ごとにそれぞれが魅力的な観光地をめざして点的なインフラ整備を進めるだけで十分なのであろうか。もっと広範囲な、点と点を線で結ぶような歴史観光ルートの道しるべとなる広域的かつ総合的な情報提供システムが必要なのではないかと考えられる。

3. 課題

前述のとおり、現在、歴史的な出来事や人物に関する限定された地域ばかりが注目され、その地域の点的な歴史観光のインフラ整備ばかりが各地で進められている。これは望ましいことであるが、インフラ整備には多額な費用が必要だ。100年に一度と言われる大不況により地域財政も逼迫している中、点的なハード整備よりもコストの掛からない広域的なエリアをカバーした情報を提供可能なソフト整備を行うことによって観光立国への道を進んでいくのはどうだろうか。

利用者は国内に限定せず、国外の利用者も対象に入れたシステムにすれば海外から日本を訪れる観光客にとっても便利になるし、もっと日本をアピールできる。

つまり、この企画の課題は、いかに世界中から手軽で簡単に点と点を結ぶ線的な歴史関連情報を収集できるシステムを構築できるかが課題である。

4. 対策

こういった課題に対する対策としては、やはり歴史関連情報のGIS（地理空間情報）化とウェブによるネットワーク化だろう。

例えばこのイメージはこうだ。入力条件として“坂本龍馬”“薩長同盟”とか入力すると、鹿児島、熊本、長崎、山口、高知、愛媛、大阪、京都等が点滅して、尚且つ関連する史跡情報や関連する人物情報が写真や文章として閲覧できるとともに、その入力したメインの人物と関連する人物同士の相関図と年譜や自分の生活拠点から最適な各史跡や歴史関連施設など巡る歴史観光ルートを自動生成してくれるようなシステム。

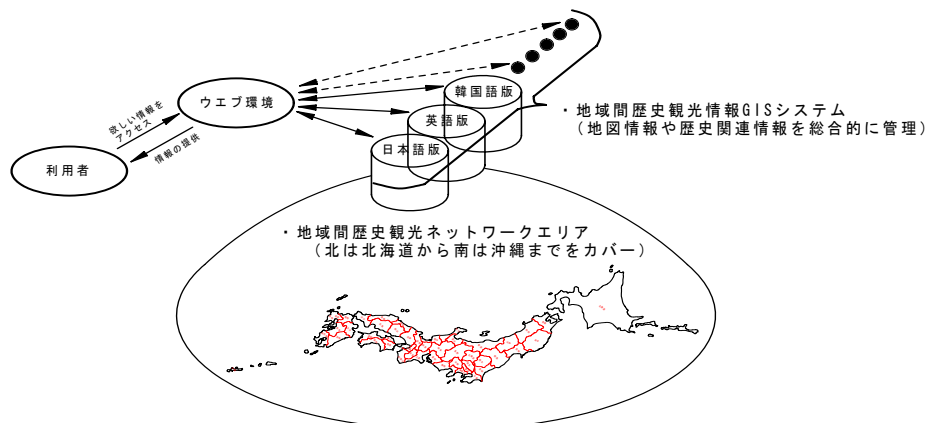
また、坂本龍馬など有名人でなくても、最近知り得た歴史上の人物でもかまわない。実はこのシステムの狙いはそこだ。自分の知らなかった歴史上の人物にある日突然に興味を持ったとき、このシステムの効能は発揮される。その人物の名前を入力しただけで、関連する地域が確認でき、尚且つ関連する史跡情報や関連する人物情報が写真や文章として閲覧できるとともに、その入力したメインの人物と関連する人物同士の相関図と年譜や自分の生活拠点から最適な各史跡や歴史関連施設など巡る歴史観光ルートを自動生成してくれるのだ。

これにより、利用者が、より現実世界に近い視点からネット上で歴史観光ルートを疑似体験できるとともに、事前にある程度の情報を得ることができ、更に現地に対する興味が沸々と沸きあがってきて旅へと誘うものではないか。また、やはり歴史観光も、学校の勉強と同様に予習すればより次の授業が楽しくなるように、現地を訪ねて確認できたときの爽快感につながるだろう。

つまりこのシステムによって、利用者に無計画よりある程度の計画性をもってもらい、一度で行けない歴史観光ルートに対して年次計画をたて広く深く大きなスパンで歴史を楽しんでもらう。そんな使い方をしてもらえれば良いと思う。日本全土を視野においた広域的な歴史観光ルートを提供し、その歴史観光ルートを道しるべとした利用する観光者の流動性から生まれる地域間のつながりから観光業界を活性化して、より経済的な地域おこしを推進できれば。

その具体的な対策としては、歴史関連情報のGIS（地理空間情報）化とウェブによるネットワーク化だと考える。

(歴史関連情報のGIS化の簡単なイメージ)



5. おわりに

話しは大きく逸れる。

今年の2月中旬、作家の村上春樹さんが、イスラエルの文学賞『エルサレム賞』の授賞式で行った記念講演が大きな反響を呼んだ話題を皆さんもご存知のことと思う。話しの内容は、体制を『壁』、個人を『卵』に例え、『私はいつも卵の側に立つ』と、作家としての姿勢を語った内容である。このお話は、あまりにも大きな話なのでここで詳細に述べられないし、その話で出てくる体制を誹謗中傷するつもりはさらさらない。この話の中で私が最も感銘を受けたのは、村上春樹さんが述べた、『私が、小説を書く理由はたった一つ、個人の魂の尊厳を表層に引き上げ、光を当てることです』というフレーズである。実はこのフレーズから、この拙い企画の提案を思い描いた。このフレーズは、受け取る側の解釈で意味合いは変わってくると思うが、私の解釈はこうだ。『誰しも魂の尊厳があり、誰しも小説の主人公になれる。』これは全く自分勝手な解釈である。

そこで、もう少しましで現実的な考え方をしようと思ったのが、現在までの日本の歴史の中で、もっと脚光を浴びるべき人物はたくさんいるのではないか。その人物の情報をもっとグローバル化しても良いのではないか。歴史といわれるものの大半は、大なり小なり体制と体制とのぶつかり合いで、当然、勝利した体制が優位になり、その体制にいた人物が評価され、敗れた体制にいた人物は、極端な話、光を浴びることが少ない。しかし、何も体制と体制とのぶつかり合いで勝利した人物だけが“歴史上の人物”ではなく、歴史を創ってきた魅力的な人物はもっとたくさんいる。こういう人物をもっとメジャーにできないか。その人物の人物像や功績を明らかにしてはどうか。そんなことをぼんやりと考えているうちにこの企画が思い浮かんできた。

私は、決して詳しい方ではないが子供のころから日本史が好きだ。鹿児島島の片田舎で育ち、親からその土地の歴史を叩きこまれ、そこから日本の歴史に入っていた。そのために、今思えば、非常に偏った側面から歴史に興味を持つようになったと思う。大人になり、鹿児島を離れ、北は北海道から南は沖縄まで、暇を見つけては日本各地の歴史資料館目当てに小旅行を行ってきた。人生の半ばを大きく過ぎた今、その先々で得た、その土地の歴史上の人物や出来事についてのその土地の持つ歴史観といったものに想いをはせれば、やはりその地域の特色と同じ歴史上の出来事や人物についても各地でとらえ方の違いや隔たりがあったりすることに気付く。これは仕方のないことだと思うし、それに気付けたのは過去のお話を公平に考える機会を得た意味で幸運だったとも思う。

日本の歴史上のさまざまな出来事やさまざまな人物の情報を GIS 化し、さらウェブによってネットワーク化することで情報を簡単に得ることができ、利用者に、日本全土を視野においた広域的な歴史観光ルートを提供し、その歴史観光ルートを道しるべとして、観光者の流動が生まれ、地域間を線をつなぎ、観光業界を活性化し、より経済的な地域おこしが推進されることを願いたい。

また、歴史から学ぼうなどとえらそうことは言えないが、もっと歴史上のさまざまな出来事やさまざまな人物について考え、今を生きる自分たちの糧としてできないか。そんな甘い期待と妄想を夢みながらこの企画を提案したい。